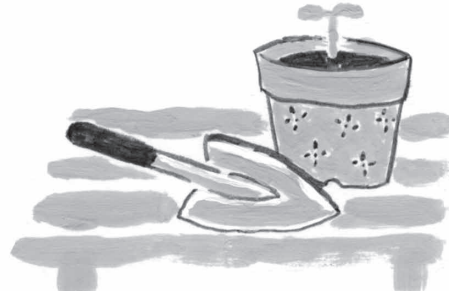


2014年度 センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属特別支援学校



筆記

1. 全体的な傾向

今年のセンター試験[筆記]でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がされた。設問形式が若干変わった箇所があるが、全体的な傾向は変わっていない。レベルとしては例年通り基本的な問題が多く、平均点は118.87点と、昨年度の119.15点とほぼ同じであった。総語数は昨年度とほぼ同じ約4,200語だった。

コミュニケーション能力をみる問題としては、
第1問A：単語をきちんとした音で発話する能力
第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力
第2問B：対話がスムーズに流れるよう、適切な単語を考える能力
第3問A：初出の単語や表現でも、全体の流れから意味を類推する能力
第3問C：発言の内容を要約する能力が例年通り求められている。

また、読解力では
第3問B：パラグラフ単位で文章の構成を論理的に思考する能力
第4問：グラフや表、説明文を参考にして文章を正確に読み取る能力
第5問：画家とその孫の手紙と日記を読み、英文やイラストを正確に把握する能力
第6問：論説文の流れを正確に追い、論の展開をつかみながら長文を読み取る能力
が試される。いずれも、文章の全体的な流れをつかんだ上で、的確な情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

2. 具体的内容分析

<第1問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

A 発音 (6点：解答数3)

基本的な単語の発音(母音が2問、子音が1問)を問う問題。カタカナにしたときの発音に惑わされやすい語(glove、onion、oven〔問1〕、casual、classic、label〔問2〕、loose〔問3〕)も例年通り複数出題された。

B アクセント (8点：解答数4)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度と同様、今年度も2、3、4音節の語が出題された。カタカナにしたときのアクセントに惑わされやすい語(parade、rescue〔問1〕、category〔問4〕)も例年通り複数出題される等、個々の語の正確なアクセントが問われる。

<第2問>

形式と問題数は昨年度と変わらず。配点はBが3点増えた。

A 語彙、語法、文法 (20点：解答数10)

語彙、イディオム、動詞の用法等を判断する問題。時制の問題(Ever since they first met at the sports festival, Pat and Pam have been emailing each other.〔問2〕)や使役動詞、知覚動詞の用法は頻出である。イディオムやコロケーションの力を併せて要求する問題(whether ~ or〔問3〕、take it for granted that ~〔問5〕、add up〔問7〕、make ends meet〔問10〕)も相変わらず多い。基本的な動詞や副詞の使い分け方(tellとteach〔問6〕、everとonceの違い〔問9〕)、関係詞、不可算名詞や同義語等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

B 対話文完成 (12点：解答数3)

対話文を完成させる問題。発話数は5～6。空欄で何を言っているのかを次のせりふから導き(laterからJust use my phone.を〔問3〕)、代名詞(that〔問2〕)の指す内容を文脈から考える。会話でよく使われる表現(Oh, come on!、Either is fine with me.〔問1〕、Oh, dear.〔問2〕)に慣れておくことも大切である。

C 語句整序 (12点：問数3、マーク数6)

各文の中に含まれる語彙・語法を使い、意味の通る文にする問題。空所の数が全て6になり、3問とも対話形式(昨年度は2問)である。動詞の用法(advise + O + to ~〔問1〕、talk + O₁ + into + O₂〔問2〕)や付帯状況等、文法の知識も併せて確認しておきたい。

<第3問>

Bが不要な文を選ぶ形式になり、Cが発言の意図を問う設問になった。Aの配点が各1点減り、全体で配点が5点減った。

A 語やフレーズの意味類推 (8点：解答数2)

下線部の単語やフレーズの意味を全体から類推する問題。対話やパラグラフの中でどのように論が展開しているか、状況が推移しているかを正確に読み取り、ヒントとなる語(句)を探して想像力を働かせる。

B 不要文削除 (15点：解答数3)

各段落のまとまりを良くするために取り除いた方がよい文を1つ選ぶ問題。

最初の文からキーワードをつかみ、最後の文でまとめとなるような構成を考える。代名詞や指示語、接続する語(句)や順序を表す表現(First, Second, The most important thing is ~〔問3〕)に注意を払い、論が正しく展開するよう当てはめていく。

C 発言の意図の要約 (18点：解答数3)

3人の発話の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の表現で言い換えている(to look at something from various perspectivesをto consider things from different points of view〔空欄34〕)ことが多いので、発言の主旨を理解し、まとめる柔軟な読解力が必要とされる。

<第4問>

形式は昨年度と同じ。Aの設問数が1増えた。配点はAの設問が各5点になった。

A グラフ読み取り問題 (20点：解答数4)

本文とグラフや図を参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめ、情報の内容を言い換えた表現を読みこなす。第1段落の第4文のthese residentsが指す内容(前の文)と、選択肢④が同じ内容であることを読み取れるか〔問1〕。グラフには上位と下位の数州ずつしか載っていない等、細かい点も見落とさないようにしたい。

B ウェブサイト読み取り問題 (15点：解答数3)

ウェブサイトから適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。問いに関する情報は上から順に出てくるわけではないので、設問の求める情報がある箇所(複数の情報を合わせる場合もある)を的確につかむことが大切である。

<第5問> (30点：解答数5)

形式と問題数、配点は昨年度と変わらず。

2人の日記と手紙から、事実の確認とそれぞれの考え方の違いを読み取る。Salvadorの1段落6文のWhen she paints a person, too often she paints an idealized image rather than the real person.やChitoseの3段落2文のYou didn't like it and told me to paint you as I saw you. 3段落4文のI should paint things as they actually are ~.の意図が、選択肢ではSalvador wanted Chitose to appreciate things for how they are.〔問1〕で表されている。それぞれの発言から、ある事項に対する考え方を丁寧に拾い上げる力が求められる。

<第6問> (36点：問数6、マーク数9)

形式ではA、Bに分かれ、Aでは内容把握、Bでは表を埋める形式で段落の要旨を選ぶ問題である。問題数、配点は昨年度と変わらず。

各段落の内容を正確に読み取り(設問A)、段落の要旨を順に並べ替える設問(設問B)の2本立て。各段落のポイントをつかみ、話がどのように展開し、主題は何か、という広くかつ深い読解力が求められる。また、正解の選択肢は本文で使われていない単語や表現で求められる場合も多いので、基本的な類義語を理解する力も必要である。

3. 昨年度から変化のあった点

- ①配点
- 第2問Bが各4点になり（昨年度は各3点）、第2問で計3点増えた。
 - 第3問Aが各4点になり（昨年度は各5点）、Bが各5点になり（昨年度は各6点）、第3問で計5点減った。
 - 第4問Aで設問が1つ増えた。配点は各5点になり（昨年度は各6点）、第4問で計2点増えた。
- ②第1問Aで母音が2問、子音が1問になった（昨年度は母音が1問、子音が1問、黙字が1問）。
- ③第2問Aで問8～10の空所が各2ヶ所になった（昨年度は各1ヶ所）。
- ④第2問Bで発話数が5と6に増えた（昨年度は全て4）。
- ⑤第2問Cで空所の数が6に増え（昨年度は5）、解答する場所が2番目と5番目（昨年度は2番目と4番目）になった。また、3問とも対話形式になった（昨年度は対話形式が2問、平叙文が1問）。
- ⑥第3問Bで、昨年度までのCの文補充の設問が、不要な文を選択する新形式の設問になった。それに伴い、発言の意図を問う設問がC（昨年度はB）になった。
- ⑦第4問Aの設問数が1増えて4になった。
- ⑧第5問のイラスト問題が内容に合ったイラストを選ぶ設問になった（昨年度は場面の順序を問う設問）。
- ⑨第6問Bの空欄が4つになった（昨年度は5つ）。

4. 新しい傾向が見られる点

- ①第2問Aで、文中の2つの空所に入れる適切な語の組み合わせを選ぶ設問が3問あった。
- ②第3問Bが不要な文を選択する設問になった。
- ③第4問Aの問4で、最後の段落に続く内容を選ぶ設問があった。

5. 日頃の学習で大切なこと

①多面的に語彙を増やす

ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換、自動詞・他動詞等、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持た

せると、未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせてなんとなく意味がつかめるようになる。カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方法であろう。

②語と語のつながり（語法、Collocation）に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われることが多いのか、英語としての語と語の自然なつながりに気を配る習慣を身につけておきたい。単独だとイメージしにくかったり、覚えにくいような単語も、自分が理解しやすい組み合わせなら、より効率的に身につくであろう。

③英語を聞き、自ら口にする

アクセント、強勢、構文（主語と述語の区切れや省略等）に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をする。単語一つ一つの音に注意を払い、全体の内容を理解しながら読み進む。何回も繰り返して読み込んでいけば、何よりも英語の音に対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

④わからない語があっても、前後関係からその意味を類推する習慣をつける

全ての単語の意味がわからなくても主旨は理解できる、と余裕を持って文章を読み進めたい。未知語に出会うとすぐに辞書で意味を調べる読み方していると類推力、想像力が身につかなくなってしまう。

⑤論理展開を重視した読解力を養う

どんな読み物でも最後まで通して読み、論の展開がどのようになっているかを段落中心に考える。接続語を手掛かりに、段落がどのように構成されているか、全体の論調を捉えてから各パラグラフのキーセンテンスを探し、要旨をまとめる。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心掛けたい。

⑥多読を心掛ける

80分で4,000語を超える分量の英語を読みこなすには、普段から500～1,000語の文章をある程度のスピードで読むことを習慣とすることが大切である。授業では精読を中心に行っているが、時には様々な分野、テーマ、形式の、比較的易しい文章に多く触れるような機会を与え、分量をこなす読み方も覚えさせたい。

リスニング

1. 全体的な傾向

過去5年間ほぼ同じ出題形式である。解答数、配点いずれも昨年度と同じである。読まれる総語数（1,100語強）は昨年度とほぼ同じ。読み上げ速度は昨年度とほぼ同じで自然な感じであるが、音声面でのリダクションもあり、聞き取りにくい箇所もあったと思われる。問題音声も設問ごとに2回流された。比較的素直に英語の内容を問う基本的な問題で、平均点は昨年度より上がり（今年度33.16点、昨年度31.45点、一昨年度24.55点）、過去5年間で最高となった。

2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル（12点：解答数6）

❖男女2人の対話を聞き、適切なイラスト、単語、アルファベット、数字を選択する

❖各対話の総語数：30語前後

イラスト（表）を選ぶ設問、数値を聞き取って計算をする設問は昨年度と同じ各2問である。対話がいつ行われているのかを問う設問（問2）も昨年度同様、1問出題されている。最初のせりふで状況を大まかに把握し、2番目～4番目のせりふのキーワードをたよりに、求められる情報を的確に探し出す。対話に出てくる語（句）や数字がそのまま答えになるとは限らず、簡単な計算をする設問もある。一部を聞き逃すと正答に結びつかない設問（all capital letters〔問3〕、I also have two to China.〔問4〕）もあるので、せりふの細部まで集中して聞く姿勢も問われる。

<第2問>対話応答補充（14点：解答数7）

❖対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

❖各対話の語数：20語弱～30語弱

相手の述べたことへの自然な反応を考える。疑問文で終わる対話の設問が3つあった（昨年度は2つ）。最初の2つのせりふから会話の場面や状況を想像できるようにしたい。また、See?（読み上げ文）〔問8〕、Sounds good.（読み上げ文）〔問9〕、No problem.（選択肢）〔問10〕、I'm off to school, hand in（読み上げ文）〔問12〕、Guess what?（読

み上げ文）〔問13〕等、日常会話でよく使われるフレーズにも慣れておきたい。

<第3問A>対話内容Q&A（6点：解答数3）

❖対話を聞き、その内容についての問いの答えを選択する

❖各対話の総語数：50語前後

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。せりふの数が8に増えたものが出題された（昨年度は5か6のみ）。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんと捉える。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。話者が相手に同意しているのかそうでないのかといった話の流れをつかむ力とともに、選択肢のsweetsがせりふのa doughnutの言い換えであることを理解し〔問14〕、せりふのRight.を男性が“右”の意味で聞いてしまった〔問16〕といった内容を正確に把握する力も求められる。

<第3問B>対話ビジュアル（6点：解答数3）

❖対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める

❖対話の総語数：約140語

聞き得た情報を順に図表に当てはめていく。今年度は違うが、簡単な計算をしたり選択肢が数字であったり、指示代名詞が何を指すのかを考えなければならない場合もある。また、情報は上から順に出てくるとは限らない（解答欄⑩が一番最初に埋まる）ので注意が必要。

<第4問A>

Short Passage 内容Q&A（6点：解答数3）

❖Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖各せりふの総語数：100語弱

問20

If you're going to Machu Picchu in highland Peru, you should consider visiting Cuzco, at 3,400 meters above sea level. You will enjoy walking through the Plaza de Armas and visiting the Temple of the Sun. You can also look at Cuzco's interesting museums and beautiful houses as well as its magnificent churches. Remember, however, that these churches close

for a few hours around noon. In addition, you can take advantage of modern hotels and restaurants, and at the same time, see Cuzco's fascinating history preserved in its architecture, language, and ancient treasures.

質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねていき、求められる情報の所在を明らかにする。選択肢では答えとなる語を別の表現で言い換えたり、まとめることがある（上記下線部をEnjoy modern and historical attractions.に〔問20〕場合も多いので、要点をつかむ力も求められる。

<第4問B>説明文内容Q&A（6点：解答数3）

❖説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖説明文の語数：約200語

質問文に目を通し、事前にどれだけの状況を想定できるかがポイント。あとは話の流れに沿って順に問題に当たっていく。全体の内容を総合的に理解する力と、求められた情報を正確に取り出す力が必要であるが、ここでも選択肢では答えとなる箇所が別の表現で言い換えられている（Young children learn about their family history, がThey learn something about their family roots.に〔問24〕ことも多い。話の流れが変わったり固有名詞も出てくる場合もあるので、メモを取りながら質問されるポイントの箇所を絞って聞くことも大切である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約45秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えを絞り、2回目は確認の作業に当てたい。

3. 対応のポイント

①状況・場面を想像し、話の流れをつかむ

事前に問題指示文、選択肢、イラスト、状況説明文等に目を通し、内容を予測してから英語を聞く。複数の方法が提示され、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。方向性を予測した上で、最後まで丁寧に流れを追いたい。

②英語特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、〔問8〕、〔問12〕、〔問13〕のようなフレーズは聞けるだけでなく、意味が自然に頭に入るまで聞き慣れておくようにしておきたい。

③言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても選択肢を読み取る力は筆記試験同様に要求される。聞き取る英語の表現がそのまま選択肢に入っているとは限らず、ある表現を別の形で言い換えている場合も多くある。正答の鍵となる情報をきちんと整理する力もつけておきたい。

④全部完璧に聞き取れなくても良しとする

筆記試験で英文を一字一句完璧に理解する必要がないのはリスニングにおいても当てはまる。リスニングでは、聞き取れなかった箇所でも悩み込んでしまうと次を聞き逃すことになる。たとえ理解できなかった部分があってもそのまま流し、「残りからさかのぼって推測すればいい」と思うくらいの余裕が欲しい。

4. 日頃の学習で大切なこと

①英語の音を聞き、その音を口にする活動を習慣にする

「継続は力なり」と言われるように、1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておいた上で、その音を真似して口に出す活動を続ける。次第に英文の流れが、意味を伴った内容となって頭に残ってくることになるであろう。

②聞いた内容を論理的に組み立て、考える力を育てる

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。教科書等の、ある程度分量がある文章の内容を理解した上で英語を聞き、論の展開をつかむ。そして音読、Qs & As, dictation等の基本練習を日頃から行い、論理的思考力も養っておきたい。

③自分のことばで実際に表現する機会を増やす

コミュニケーションが成立するためには、お互いの考えをきちんと伝え合うことが必要である。まずは相手の伝えたいことを理解する。その次の段階として、自分の意見や考えを自分のことばで実際に表現する活動を増やしていきたい。